

第24回

秋田腎不全研究会

プログラム

日 時 : 令和2年11月22日(日) 10:00~15:40
会 場 : Web開催
会 長 : 秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学 教授 羽瀨友則
当番幹事 : 秋田厚生医療センター 腎臓内科 診療部長 大谷 浩
主 催 : 秋田腎不全研究会
後 援 : 公益社団法人秋田県臨床工学技士会

～参加者の皆様へ～

1. 今回の研究会はZOOMのウェビナー機能を利用したWeb学会形式で行います。
2. 参加費は無料です。一般参加者は URL「https://zoom.us/webinar/register/WN_ezUTQs0QSE6N8_THhMt2bQ」からご入室下さい。登録用フォームに、氏名、メールアドレス、ご所属、ご所属先の住所、郵便番号等をご登録頂きますと研究会への参加が可能となります。秋田腎不全研究会ホームページ(<http://www.akitajinfuzen.jp/>)からもご入室可能です。
3. 発表者の方へ：発表方法は、ご自身のPCを使用したPower Pointによるプレゼンテーションとなります。

【利益相反の情報開示について】

発表内容が臨床研究である場合には、筆頭発表者自身の過去1年間における、発表内容に関連する企業や営利を目的とする団体に関わる利益相反の有無をお示し頂きます（共同発表者の利益相反は開示不要。培養細胞や動物実験を使用した基礎研究に関しては対象外）。タイトルスライドの次などに利益相反自己申告に関するスライドを加えて下さい。

一般参加者と同様にURL「https://zoom.us/webinar/register/WN_ezUTQs0QSE6N8_THhMt2bQ」からご入室下さい。ご発表セッション開始時間の10分前までにはご入室下さい。秋田腎不全研究会ホームページ(<http://www.akitajinfuzen.jp/>)からもご入室可能です。

お時間が来ましたら研究会運営事務局から、「〇〇先生、手を挙げてください」と口頭でご案内しますので、ZOOMの「手を挙げる」機能をご使用下さい。運営事務局側でご発表する部屋へ「引き上げ」作業を行います（学会等で壇上に上がっていただく様なイメージです）。「引き上げ」されたのちに、ご発表の順番がきましたら座長（もしくは研究会運営事務局）から「では〇〇先生、ビデオの開始、マイクミュート解除、画面共有をお願いいたします」とご案内がありますので、その案内後にご自身のPC操作をお願いいたします。「画面共有」後はご自身のPC画面上の操作が可能となりますので、ご自身でPower Pointを開いてスライドショーでスライドを送りながらご発表をお願いいたします。

口演時間は「発表7分、質疑応答3分」です。座長の指示に従い、時間内での終了をお願い致します。セッション終了後は研究会運営事務局で視聴する部屋へ「引き下げ」作業を行います（学会等で会場のご自分の席にお戻りいただく様なイメージです）。

後日、秋田腎不全研究会誌投稿用原稿を同雑誌投稿規定に従い、図表を添えて、令和3年1月29日(金)までに「〒010-8543 秋田県秋田市本道 1-1-1 秋田大学医学部附属病院泌尿器科内 秋田腎不全研究会事務局」宛に提出して下さい。

4. 座長の方へ：一般参加者と同様に URL「https://zoom.us/webinar/register/WN_ezUTQs0QSE6N8_THhMt2bQ」からご入室下さい。ご担当セッション開始時間の10分前までにはご入室下さい。秋田腎不全研究会ホームページ(<http://www.akitajinfuzen.jp/>)からもご入室可能です。

お時間が来ましたら研究会運営事務局から、「〇〇先生、手を挙げてください」と口頭でご案内しますので、ZOOMの「手を挙げる」機能をご使用下さい。運営事務局側でご発表する部屋へ「引き上げ」作業を行います(学会等で壇上に上がっていただく様なイメージです)。「引き上げ」されたのちに、「ビデオの開始」、「マイクミュート解除」、をお願いいたします。

演者一人あたりの口演時間は「発表 7 分、質疑応答 3 分」です。時間内で終了いただけるようにご指示をお願い致します。セッション終了後は研究会運営事務局で視聴する部屋へ「引き下げ」作業を行います(学会等で会場のご自分の席にお戻りいただく様なイメージです)。

5. 幹事会は、11月20日(金)18:00よりWeb会議(ZOOM)を用いた非対面形式において開催致します。ご参加される幹事の先生方にはメールと郵送でWeb会議ご参加用URLをお知らせし、幹事会資料も併せてお送りいたします。
6. 日本医師会生涯教育講座、生涯教育制度「2単位」取得が可能です。
7. 一般社団法人日本透析医学会、専門医制度「5単位」取得が可能です。
8. 一般社団法人日本腎不全看護学会、慢性腎臓病療養指導看護師受験資格「6ポイント」取得が可能です。
9. 一般社団法人日本腎臓学会、腎臓専門医資格更新のための「1単位」取得が可能です。
10. 公益社団法人日本臨床工学技士会の血液専門臨床工学技士、認定制度「3単位」取得が可能です。

◆開会の辞 (10:00~10:05)

会長 羽瀨 友則

《セッション・1》

症例：腹膜透析 (10:05~10:35)

座長 石田 俊哉 (市立秋田総合病院 泌尿器科)

1. S状結腸切除後に腹膜透析再開が可能であった1例

平鹿総合病院 泌尿器科
由利組合総合病院 泌尿器科

ナカムラ クミコ
○中村久美子、伊藤 卓雄、久保 恭平、鈴木 丈博
今村専太郎

2. 剖検にて被嚢性腹膜硬化症、消化管を中心とする透析アミロイドーシスと診断した血液透析患者の1例

岩手県立胆沢病院 泌尿器科

アオヤマ ユウ
○青山 有、忠地 一輝、喜早 祐介、樋口 知見、
米田 真也、下田 次郎
中島 志織、石田 雅宣
石田 和之

秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座
獨協医科大学 病理診断学

3. 間欠的洗浄療法をとともう局所陰圧閉鎖療法 (NPWTi-d) によって治療した腹膜透析カテーテル感染症の1例

北秋田市民病院泌尿器科・透析室

ササキ リュウセイ
○佐々木隆聖、堀部 智子、湯瀬 達也、三浦 孝子、
高杉かおり、村形 隆良、齊藤美佳子
武藤 弓奈

秋田大学医学部附属病院 泌尿器科

《セッション・2》

透析管理 (10:40~11:10)

座長 石山 博之 (秋田厚生医療センター 臨床工学科)

4. 血液透析患者に対するカルニチン補充療法の臨床評価

医療法人秋田泌尿器科クリニック

コバヤシ ヨウヘイ
○小林 陽平、嵯峨まゆ子、佐々木由美、佐藤 啓子、
金野 裕介、三浦真由美、佐藤 円、鏗 弥生、
佐々木 藍、佐藤 大輔、能登 舞、能登 彩、
能登 宏光

5. 当院のシャント管理の現状

秋田赤十字病院 血液浄化療法課

ナリタ フミユキ
○成田 文侑、大沢 元和、大山 幸男、利部 悠、
児玉 健太、大久保範子、清水 有華、加賀谷亮太、
佐藤 公哉
島山 卓、朝倉 受康、佐藤 隆太

同 腎臓内科

6. 秋田県透析施設における透析排水管理の現状調査

公益社団法人 秋田県臨床工学技士会

ヒラツカ ヒロキ
○平塚 広樹、大久保範子、藤川 一人、田中 雅徳、
守澤 隆仁、小林 浩悦、佐藤 賢行

《セッション・3》

腎移植 (11:15 ~ 11:45)

座長 齋藤 雅也 (秋田大学大学院医学系研究科 血液・腎臓・膠原病内科学)

7. 夫婦間生体腎移植後、生活背景の変化した患者への心理的支援の検討

秋田大学医学部附属病院 看護部	アイバ	ユイカ		
秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座	○相庭	結花、伊藤	歩、瀬田川美香、立原恵理子、	
秋田大学医学部附属病院 腎疾患先端医療センター	山本	竜平、羽渕	友則	
	佐藤	滋		

8. 不明熱を呈し診断に苦慮した生体腎移植後肺アスペルギルス症の1例

秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座	サイトウ	タクロウ		
	○齋藤	拓郎、齋藤	満、山本 竜平、提箸隆一郎、	
	嘉島	相輝、小泉	淳、奈良 健平、沼倉 一幸、	
秋田大学医学部附属病院 腎疾患先端医療センター	成田伸太郎、羽渕	友則		
	佐藤	滋		

9. 腎移植前の貧血管理の意義

秋田大学医学部附属病院 血液浄化療法部	サイトウ	ミツル		
同 腎疾患先端医療センター	○齋藤	満、羽渕	友則	
秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座	佐藤	滋、藤山	信弘	
	提箸隆一郎、齋藤	拓郎、嘉島 相輝、山本 竜平、		
	小泉 淳、奈良	健平、成田伸太郎、羽渕	友則	

第8回 秋田腎不全研究会奨励金「受賞発表」(11:50 ~ 12:05)

座長 秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学 教授 羽渕 友則

『ANCA関連腎炎の臨床組織学的重症度と好中球細胞外トラップの関連についての研究』

秋田大学大学院医学系研究科 血液・腎臓・膠原病内科学	サイトウ	マサヤ
	○齋藤	雅也

企業広告 (12:05 ~ 12:15)

◆特別講演 1 (12:15 ~ 13:15)

共催：協和キリン株式会社

座長 秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学 教授 羽渕 友則

『慢性腎臓病の新しい治療法：基礎医学からの提言』

自治医科大学 分子病態治療研究センター	抗加齢医学研究部	教授
	クロオ	マコト
	黒尾	誠 先生

企業広告 (13:15 ~ 13:25)

◆特別講演 2 (13:25 ~ 14:25)

共催：中外製薬株式会社

座長 秋田厚生医療センター 腎臓内科 診療部長 大谷 浩

『今求められる透析患者のリン管理と栄養管理』

東京医療保健大学 医療保健学部医療栄養学科 准教授

キタジマ エキエ
北島 幸枝 先生

企業広告 (14:25 ~ 14:35)

《セッション・4》

症例：診断・治療、臨床検討 (14:35 ~ 15:15) 座長 小松田 敦 (雄勝中央病院 副院長)

10. デンバーシャントで難治性腹水および透析困難症を改善し得た末期肝不全透析患者の一例

十和田市立中央病院 泌尿器科 イガラシ リョウマ
○五十嵐龍馬、寺井康詞郎

11. 拡散強調MRIにより診断し得た運動後急性腎障害の1例

秋田厚生医療センター 腎臓内科 オザワ マサトヨ
○小澤 政豊、多田 光範、後藤 博之、大谷 浩

12. 当院透析患者のカルニチン血中濃度

市立秋田総合病院 泌尿器科 ササガワ ハジメ
○笹川 甫、松田 芳教、三浦 喜子、里吉 清文、
秋濱 晋、前野 淳、石田 俊哉

13. 当院でのロキサデュスタット錠の使用経験

大曲厚生医療センター 泌尿器科 タカハシ ヨシユ
○高橋 佳子、灘岡 純一、神崎 正俊、熊澤 光明

総会 (15:15~15:25)

会長 羽瀨 友則

事務局からのお知らせ (15:25~15:35)

秋田腎不全研究会 事務局 齋藤 満

閉会の辞 (15:35~15:40)

副会長 大谷 浩